

平成 2 6 年

第 1 回仙北市議会定例会  
教 育 行 政 方 針

仙北市教育委員会

平成 2 6 年 2 月 1 8 日

平成26年第1回仙北市議会定例会の開会にあたり、平成26年度の教育行政方針を申し上げます。

#### ◇はじめに

仙北市の学校教育については、学習指導要領の趣旨を生かし、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指して参ります。

「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体をもち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」の育成を、幼稚園・小・中学校の共通目標として、園、学校、家庭、地域と一体となって取り組んで参ります。

また、昨年度新設された大曲養護学校せんぼく分教室との連携を更に強化するとともに、本年度から統合となる新生角館高等学校の新しいスタートに向け、最大限の支援と協力を推し進めて参ります。

生涯学習の推進については、平成25年度から5カ年の社会教育、生涯学習を推進する指針として策定した、第2次社会教育中期計画に基づき、市民一人ひとりが生涯にわたり学習に取り組むことができるよう、学習支援の環境整備に積極的に取り組んで参ります。

スポーツ振興については、FISワールドカップモーグル大会が、平成26年度から3年連続で開催される初年度となることから、大会の成功と本市たざわ湖スキー場の世界への発進に向け、万全の体制で準備を進めて参ります。

また、総合型地域スポーツクラブの育成やチャレンジデー、田沢湖マラソンなど、各種スポーツイベント等の振興を図るとともに、スポーツ関係団体等の活動を支援し、市民スポーツの向上に努めて参ります。

文化財関係については、貴重な文化遺産や伝統芸能等を後

世に残し将来へ引き継ぐため、各種の保存事業や継承事業、地域文化、芸術資源の掘り起こしに取り組み、文化、伝統を基盤とした誇りある市民意識の醸成に努めて参ります。

10月4日に開幕する第29回国民文化祭・あきた2014については、本市の豊かな地域文化を全国に発信する最高の機会と受け止め、開催する10事業の推進体制の強化、充実に努め、市民とともに来訪者を温かく迎え、更なる文化的風土の醸成に努めて参ります。

次に各課について申し上げます。

### **【教育総務課】**

子どもたちが一日の大半を過ごす学校施設は、学習や生活の場であり、豊かな人間性を育む教育環境として重要な施設であります。一方、災害時には緊急避難場所など、地域の防災拠点としての役割も担っております。このことから子どもたちが快適に過ごすことができる学習環境の提供と、災害時の利用も考慮した各施設の諸工事や維持修繕事業等を、必要性や緊急性を勘案しながら計画的に進めて参ります。

また、遠距離通学児童生徒の利便性と安全、安心を確保するため、引き続きスクールバスの定期的運行を実施して参ります。

田沢湖地区の教育職員住宅については、建築後30数年が経過し、老朽化が著しく使用に耐えない状況にあることから解体撤去し、西木地区の教育職員住宅については、普通財産への所管替えを行い売却等を予定しております。

### **【教育指導課】**

#### **◇学校教育の充実**

児童生徒の命を守る防災・安全教育の充実に引き続き取り組みとともに、いじめ・不登校対策、体罰の絶無、学力向上に重点的に取り組み、学校教育のいっそうの充実に努めて参ります。

特に、いじめ・不登校問題、ネットトラブル等の情報モラルを含む生徒指導上の諸問題については、仙北市いじめ防止等のための基本方針の策定をはじめ、その体制整備を図って参ります。児童生徒の心の悩みや不安に対し、学校体制での未然防止、早期発見・早期対応に努め、子どもや保護者、市民からの相談に応じる体制強化など、その予防や解決のために関係機関と連携し、教育委員会の最重要課題として取り組んで参ります。

また、学力向上については、4月に実施される全国学力・学習状況調査、12月に実施される県の学習状況調査を活用し、市内小・中学校の課題を明確にするとともに、その解決のため北浦教育文化研究所を中心に各学校への指導と支援をいっそう充実させて参ります。

さらに、教育用コンピュータの更新並びに教材整備を計画的に進め、各校の授業改善を支援して参ります。

#### ◇新入学児童生徒数と複式学級等について

平成26年度の小・中学校の新入学児童生徒数については、小学校184人（前年児童数237人）、中学校225人（前年生徒数203人）が予定されており、昨年度と比較して小学校が53人減少し、中学校が22人増加しております。

市立幼稚園については、3園で47人（前年度園児数46人）となっております。少子化の影響で園児の確保が大きな課題ではありますが、市内保育園との連携を深め、今後も魅力ある園経営を実施し、園児の確保と就学前教育の充実に努め

て参ります。また、平成27年4月に本格施行を予定している国の「子ども・子育て支援新制度」に向けて、子育て支援関係部署と連携し、その準備を進めて参ります。

中川小学校と白岩小学校では、平成26年度においても、複式学級が発生する予定であります。その対象学年については、平成25年度と同様に市費負担による非常勤講師を配置し、複式授業の解消を図ることとしておりますが、前年度に引き続き、県教育委員会から県費負担教職員及び講師を配置していただくよう強く要望して参ります。

### **【北浦教育文化研究所】**

県教育庁南教育事務所並びに仙北出張所の指導主事と連携しながら、市内小・中学校の学校訪問を実施し、授業参観、授業研究会の指導助言のほか、市内研修会を開催し、児童生徒の学力向上に向けた授業改善、教職員の資質向上に努めて参ります。

なお、不登校適応指導教室（さくら教室）の指導員を中心として、不登校児童生徒への対応や対策、相談活動の充実、併せて市民や児童生徒、保護者からのいじめ事案等の相談体制も充実させて参ります。

また、小学校外国語活動の授業の充実のため、小学校外国語指導助手の配置を継続し、児童生徒の国際理解と外国語への意欲、関心を高める授業を推進して参ります。

なお、各学校の特色ある行事・教育活動を財政的に支援するキャリア・ふるさと教育推進事業の継続と、ふるさと学習実施資料として、本市の自然・歴史・文化・産業等をまとめた「ふるさと仙北学（仮称）」を発刊し、ふるさと教育をいっそう推進して参ります。

さらに、毎月発行している教育委員会だよりを引き続き発

行し、市内幼稚園・小・中学校、公民館等の特色ある取り組みを中心に、広く市民に広報周知して参ります。

### 【学校給食センター】

学校給食は、学校給食法に基づいた学校教育の一環として位置づけ、児童生徒の偏食の矯正、食事マナー、食文化等に関する知識の向上を図り、心身の健全な発達を図ることを目的に、学校及び家庭との連携を密にしながら実施して参ります。

主食の米飯給食は、全て仙北市産のあきたこまちを提供しておりますが、副食材料についても地場産物や郷土料理などを取り入れ、児童生徒が郷土の自然や文化を大切にする心を育むよう「地域と結ぶ学校給食」の推進に努めます。

また、年間5回の季節行事給食や小・中学校の最高学年を対象にバイキング給食を実施し、思い出に残る学校給食を提供して参ります。

児童生徒のアレルギー対応を含め、施設及び設備の整備と衛生管理に万全を尽くし、安心して食べられる学校給食の提供に努めて参ります。

### 【生涯学習課】

国道105号のフラワーロード花壇は、設置から22年が経過し、今では西木地区の風物詩の一つになっています。苗の一斉植栽時の参加者が減少傾向にありますが、地域からは継続を望む声が多く、例年より1カ月早い6月上旬の植栽を目指して参ります。

平成26年度の花いっぱい運動については、国民文化祭などを視野に入れた植栽を実施するとともに、新たに「花のある街コンクール」や「花の市」を開催し、花を生かした豊か

で潤いのある街づくり事業に取り組んで参ります。

また、近年インターネットや携帯電話の普及に伴い、子どもの活字離れが進んでいることから、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく、「子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもはもちろんのこと、市民のライフステージや状況に応じて読書に親しむ環境づくりを進めて参ります。

## 【公民館】

公民館事業は、市民の学習意欲に応えられる環境と体制作りが不可欠であることから、これまで各公民館がそれぞれ開催している講座等の情報の一元化により、地域の垣根を越えたバランスの取れた学習支援が可能となり、講座参加者の交流も活発になってきております。

平成26年度は、こうした状況を踏まえ「誰でも、どこでも、受講・参加」を基本に利便性を高め、受講者が多い人気講座を継続しつつ、市民の意見や要望を収集して時代の流れを反映させながら、より興味を持ってもらえる講座を積極的に展開し、全公民館が相互の協力体制を取り合いながら、全市民の学習意欲の向上を支援して参ります。

また、「中央公民館構想」については、現在の各公民館の主体的な事業を尊重しつつ、将来の公民館の一本化、公民館活動の一体化に向けて、様々な観点から検討して参ります。

## 【学習資料館・イベント交流館】

学習資料館では、平成25年度に引き続き図書館支援員を市内小・中学校12校に定期的に派遣し、図書のデータ入力や図書の発注、書架整理など学校図書館の環境整備を実施して参ります。

また、今後とも学校図書の蔵書冊数の増加に努め、子ども

読書活動の推進を図るとともに、多くの市民が利用する学習資料館活動の充実を図って参ります。

新潮社記念文学館では、第29回国民文化祭事業として10月4日から11月3日の期間において、秋田県出身または秋田県にゆかりのある作家を紹介する企画展「秋田の文学について知ろう」展を開催し、全国に秋田の文学の豊かさを発信して参ります。

### **【市民会館】**

市で唯一の大規模ホールである市民会館は、今年度開催される第29回国民文化祭・あきた2014の事業のうち、三つの事業会場となります。施設を訪れる全ての方々が快適に利用いただけるよう安全で適切な管理に努めて参ります。

毎年好評を得ている自衛隊音楽隊のコンサートやロビーコンサートなど、様々なジャンルの自主事業を積極的に開催して参ります。

また、行政における施設管理のスリム化や効率化が求められていることから、柔軟で効果的な施設運営を図るため、指定管理者制度の導入等も視野に入れ、会館施設の管理体制の方向を検討して参ります。

### **【田沢湖図書館】**

田沢湖図書館は、昨年度、外壁の改修と屋根の防水工事、内装の一部改修を行いました。今後も施設の適切な維持管理を行い、来館される方々が安全で快適に利用できるよう努めて参ります。

また、本の貸し出しにとどまらず、多様な講座や朗読コンサートなど、図書館の枠にとらわれない様々な事業を企画し、魅力ある図書館運営に努めて参ります。

特に子ども読書活動の推進を図るとともに、より読書へ興味を持っていただくため、図書館の業務を体験するイベント等も企画して参ります。

## 【スポーツ振興課】

### ◇F I Sワールドカップモーグル大会（仮称）

秋田県とともに開催を計画しているF I Sワールドカップモーグル大会については、現在、秋田県・仙北市・秋田県スキー連盟・田沢湖高原リフト株式会社・田沢湖角館観光連盟で組織する、F I Sワールドカップモーグル大会開催準備委員会において準備が進められております。5月に開催される世界スキー連盟の総会において、日程等を含めてたざわ湖スキー場に決定される見込みであります。今後、組織されるワールドカップ組織委員会により経費が確定した後、関係機関と連携のうえ、全市をあげてワールドカップの成功に向け取り組みで参ります。

### ◇総合型地域スポーツクラブについて

神代地区の総合型スポーツクラブは、2年目を迎え平成26年度末には自立したクラブ組織となることを目指しています。また、桧木内てくてく倶楽部は、4年目を迎え引き続きクラブ運営を担うマネージャーを雇用し、事業の展開を図ることとしており、必要な支援を続けて参ります。

### ◇チャレンジデーについて

平成26年度のチャレンジデーは、5月28日に開催される予定で、仙北市としては4回目の挑戦となります。

開催当日に、無料開放する体育館にスポーツ推進委員を派遣し、仙北市体育協会や総合型地域スポーツクラブ、地域運

営体等からのご協力をいただき、市民の皆さんへ利用を呼び掛け、参加者の増加を図るとともに、日ごろからの継続的な運動の普及に向けた取り組みを推進して参ります。

#### ◇田沢湖マラソンについて

9月21日に開催を予定している田沢湖マラソンは、昨年初めて6千人を超える参加申し込みをいただき、今年も参加者の増加が予想されます。このため、生保内地区の駐車場を整備し、シャトルバスでの輸送システムを検討して、ランナーの皆様をお迎えいたします。

また、参加者が増えることに伴い、事業費の増加も必要なことから、仙北市の負担や種目別の参加料の見直しを図りながら、ランナーへのよりよいサービスの提供に努めて参ります。

#### ◇各種スポーツ活動の推進について

本年度も引き続き、仙北市体育協会や仙北市スポーツ少年団をはじめ、9月の第4日曜日に開催予定の秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン大会、3月上旬の田沢湖クロスカントリースキー大会などへ支援することとしております。平成24年度から2カ年開催される日本スノーボード協会主催の全日本スノーボードテクニカル選手権大会が、平成26年度もたざわ湖スキー場で開催される見込みとなり、今後もうこうした大会の誘致に努めて参ります。

#### 【文化財課】

平成26年度国庫補助事業の重要伝統的建造物群保存地区保存事業は、昨年度に引き続き小田野家主屋改修工事（Ⅱ期工事）を実施いたします。主に建具工事、塗装工事などを中

心とした建築工事を完了させ、公開事業につなげて参ります。

重要伝統的建造物群保存地区防災施設整備事業については、防災施設設置から25年以上が経過し、老朽化への対応が求められております。このため、昨年度完成した重要伝統的建造物群保存地区防災施設設置基本調査に基づき、歴史的町並みと武家屋敷の木造建造物、環境物件である景観樹木などを火災や地震等から守る対策や、地区住民、観光客の避難対策などの策定と施設整備の実施設計を行います。

また、角館町伝統的建造物群保存地区の防災訓練については、貴重な文化遺産を守るため、これまで秋の全国火災予防運動に先立ち、11月最初の日曜日に行って参りました。しかし、武家屋敷周辺の観光シーズンとも重なることから、開催時期や実施方法などについて、地域住民や関係者等と協議するとともに、観光客や関係者への事前周知についても、ホームページや広報等の活用を検討して参ります。

秋田藩角館郷校「弘道書院」復元については、昨年度の試験堀りや検討委員会の意見などを踏まえ、伝承館前広場の一面の手堀りを含めた試験堀りを再度行い、井戸・礎石等の位置を調査いたします。

仙北市の花「サクラ」については、引き続き名勝指定の桧木内川堤、田沢湖高原高野地区の整枝作業と西木町かたまえ山森林公園の施肥作業等に取り組みます。

また、地域の歴史や文化の掘り起こし、保存、継承の重要性が叫ばれる昨今、まだ、あまり知られていない歴史、文化、芸術資源の掘り起こしや復活再生等を目指して、市の地域文化にかかわる基礎資料の作成に着手いたします。

### **【角館町平福記念美術館】**

平福記念美術館では、平成26年度も様々な企画展を計画

しております。4月に仙北市出身の歌手、藤あや子さんの絵画と陶芸作品の展示会を、4月下旬から5月にかけては、大正期の画家であり、現在も全国的に人気の高い「竹久夢二」の展示会を予定しております。

7月には、(株)秋田放送との共催で「風立ちぬ 原画展(仮称)」を開催する予定です。また、平成26年が平福穂庵の生誕170年という節目の年であることから、記念展を8月に開催する予定です。

第29回国民文化祭・あきた2014の事業として、「江戸に花開いた秋田の文化」と題した秋田蘭画を中心とした展示会を開催し、秋田蘭画の故地である角館の歴史と文化的魅力を、広く全国の方々に知っていただく機会にしたいと考えております。

今後ともより多くの皆様から気軽に芸術作品を鑑賞していただけるよう創意工夫に努めて参ります。

### **【国民文化祭推進室】**

10月4日から11月3日まで、第29回国民文化祭・あきた2014が「発見×創造 もうひとつの秋田」をテーマに開催されます。

平成24年8月に仙北市実行委員会を設立し、これまで仙北市主催事業の検討、協議を経て、昨年4月から教育委員会内に国民文化祭推進室を設置し、国民文化祭のPR等に努めて参りました。

事業内容は、東北の青少年や東日本大震災被災地の民俗芸能団体の芸能発表、飾山囃子と仙北地方のささらの大競演会を行う「民俗芸能の祭典」、角館のまちなかを美術館に見立てた歴史と文化に触れるアート展示の「アート de まちあるき」、江戸時代に花開いた秋田蘭画や佐竹北家にまつわる展覧会、

講演等が開催される「江戸に花開いた秋田の文化」、全国の大正琴愛好者1,500人が集い、二日間に及ぶ共演を行う「大正琴の祭典」など、10の事業別に20を超えるイベントとなっています。

秋の本番に向けて、より具体的な情報のPRや看板、のぼり等の設置、来訪者を温かく迎える体制づくり等、機運の盛り上げを図って参ります。

本市の豊かな地域文化を全国に発信する最高の機会と受け止め、市民一丸となって成功に向けて取り組んで参りたいと思います。

以上、平成26年度の教育行政の基本方針及び主要な施策の概要について申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきまして、慎重ご審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げます。